

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	武雄市立東川登小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「学力向上」としては、全職員が「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、ICTを活用した授業改善に取り組み学力の定着を目指す授業実践を重ねたが、児童の学力が向上したとはいいがたい。継続して授業改善に取り組む。 「心の教育」に関しては、生活アンケートや教育相談週間での面談等の取組により、いじめの早期発見、早期対応をすることができた。「学校が楽しい」と答えることができなかった子どもに焦点を当てて、組織で対応していくことを心がけていく。 今後も年間を通して支援・配慮を意識した指導や研修を充実させ、教職員の特別支援教育に関する専門性の向上を目指す。 ふるさとを誇りに思う教育活動は、生活科や総合的な学習の時間などを通して、地域との交流をしながらふるさとのよさを体験的に学ぶことができている。郷土学習や地域人材の活用をしながら持続可能な学習の充実を図っていく。
2 学校教育目標	自ら気づき、考えて、行動する子どもの育成 ～やさしく かしく たくましく～
3 本年度の重点目標	認知能力と非認知能力の一体的な育成

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 全職員による共通理解と共通実践・ICTを活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 家庭教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「学年に応じた課題を見つけ、解決する方法を考え、課題を解決することができた」と答える児童が80%以上。 「授業を通して、学習内容が身についたと思う」と答える児童が80%以上。 「家では、決められた時間は学習している」と答える児童が80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で話し合う活動を設定するとともに、タブレット活用により学習の個性化を図る。 児童による授業評価を年に2回行う。 自学履を高・中・低と行うことで、内容の充実を図る。 低・中・高学年別に系統性をもたせ、家庭学習の充実を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校アンケート「『授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2』を踏まえ、全教科半分以上の授業で話し合う活動を設定し、学力向上に努めた。」の項目では、肯定的に回答した教職員は100%だった。ICTを活用し、児童が主体的に他者と協働して学ぶ個別最適な学びの充実を図るとともに授業改善に取り組み学力の定着を目指す授業実践を重ねた。授業研究会や研修を通して、ICTの活用について、全職員で共通理解を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、児童が主体的に他者と協働して学ぶ個別最適な学びの充実を図るとともに授業改善に取り組み学力の定着を目指す授業実践を重ねた。「学年に応じた課題を見つけ、解決する方法を考え、課題を解決することができた。」「授業を通して、学習内容が身についたと思う」の項目では、肯定的に回答した児童はそれぞれ100%、97.2%であった。 Gemini・NotebookLMなどの生成AIやGoogleフォームの活用、および先通校の実践に関する研修を継続的に実施した。学校訪問や市教研で生成AIを活用した授業づくりに関わる機会も増え、教職員の間でICTを用いた授業改善への意識が高まった。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 「人の気持ちに気づき、寄りそう」「自他のよさを認め合い、成長を喜び合う」「感謝の気持ちが育つ」ための教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> 「相手の気持ちを考えることができる」と回答した児童90%以上、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 個と集団への働きかけを通じた発達支援の生徒指導を行う。 地域の方々と交流活動やふれあい道徳を実践し、人権教育との相互充実を図る。 児童会を中心としたアルミ缶回収等ボランティア活動をより主体性をもたせた取組として改善・充実を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「相手の気持ちを考えることができる」と肯定的な回答をした児童は97%、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童は100%であった。 地域の方々と交流会や人権集会を今後実施予定。 保護者や地域の方が参画したふれあい道徳を実施した。 定期的に児童会を中心としたアルミ缶回収等ボランティア活動を行った。引き続き継続する予定。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「相手の気持ちを考えることができる」と肯定的な回答をした児童は98%、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童は100%であった。 保護者や地域の方が参画したふれあい道徳、地域の方々と交流会や人権集会を計画的に実施し、人権教育との相互充実を図ることができた。 児童会を中心とした全校集会、募金活動など主体性を持たせた取り組みを行い、児童の主体性を高めることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は楽しい。」と回答した児童90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uアンケートや生活アンケート、教育相談週間の活用を通して、いじめに対する迅速かつ組織的対応の徹底を図る。 たて割り班活動の充実を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uアンケートや生活アンケート、教育相談週間の活用を通して、いじめに対する組織的対応の徹底を図った。いじめ予防教室(6名)や週に一回開く児童の共通理解を図った。今後もいじめの早期発見に向けて職員で共通理解を行う。 「学校は楽しい」と回答した児童90%だった。今後もなおよしタイムやなおよし掃除を通してたて割り班活動の充実を図り「学校は楽しい」と感じる児童を少しでも増やしたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uアンケートや生活アンケート、教育相談、気になる児童について定期的に共通理解をしながらいじめ防止につながる組織的対応ができた。また、人権集会を通して人権意識を高めることができた。 「学校は楽しい」と回答した児童は93%だった。なおよしタイムやなおよし掃除、じゃんけん大会を通して縦割り活動の充実を図り学校生活を充実させることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 	<ul style="list-style-type: none"> 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組み、育みたい資質・能力を焦点化する。 教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みを実施し、キャリアパスポートを活用する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒94%であった。 「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒97%であった。 4月から10月までキャリアパスポートを活用できた。2学期も引き続き活用する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学習生活アンケート(2回目)の結果から、「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童は96%であった。 「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童は96%であった。 講師を招聘して教育講演会を実施した。夢や目標をもつことの大切さを自分の経験を交えながら話してもらうことで、夢や目標をもつ意識を高めることができた。 キャリアパスポートを使い、各学期を振り返ることができた。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ①「運動習慣の改善や定着化」 	<ul style="list-style-type: none"> ①週3回以上外遊び(体育や社会体育を含まない)をしている児童が80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 健康委員会が放送などを通して、児童へ外遊びの推奨・啓発を行う。 教師が声掛けをするなど、外で遊ぶ機会をつくる。 保健便りを通して、家庭へ外遊びの推奨・啓発を行う。 熱中症対策の推奨・啓発を行う。 夏季の外遊びは、熱中症対策を優先する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果、週3回以上外遊び(体育や社会体育を含まない)をしている児童が83%以上だった。 教師が声掛けをしたり、外遊びの機会を作ることで、外で遊ぶ児童が増えた。 健康委員会が熱中症対策についての放送を行い、推奨・啓発を行った。 今後涼しくなった時に、なわとびや外での遊びを推奨していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの結果、体育や社会体育を除く「週3回以上の外遊び」をしている児童は88%となった。 全学年毎段階に応じて、外遊びの大切さについて指導を行った。家庭にも保健便りを通して啓発した。 教師が声掛けや共遊を積極的に行ったことで、業間や休み時間に運動場へ出る児童が増加した。 冬季の体力向上策として、12・1月を「長縄期間」と設定した。健康委員会による放送での啓発や記録への挑戦を通して、冬場でも意欲的に運動に親しむ態度が育った。
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・		・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間)を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上(年間15日の職員は10日以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 会議などの話し合いを効率的に行い、事務作業の時間を確保する。 会議や行事等の精選を行い、年休取得可能な日時の確保を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> パソコン内の連絡掲示板を活用したことで、職員連絡会の時間削減につなげることができた。 会議や研修を計画的に行い、業務の効率化を図ることができた。 計画的に年休取得ができていると回答した職員が85%以上となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 時間外在校等時間の月45時間遵守の達成は職員の約93%で、高い達成率であった。 年次休暇の取得日数14日以上(年間15日の職員は10日以上)の達成は職員の約94%であった。「計画的に年休取得ができている」と回答した職員が89%以上であった。 会議の内容や回数等を精選し効率的に進めることができた。
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・		・
●特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育に関する専門性の向上を目指す教育活動に努め、支援が必要な児童に対し適切な合理的配慮を行うことができた」と回答した職員90%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関する研修会を実施する(2回)。 気になる児童の報告を毎月1回行い、情報共有する。また、状況に応じてケース会議を開催し、関係者間での情報共有を行い、支援をする。 個別の教育支援計画に沿い、合理的配慮を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に、予定通り2回の研修会を行った。研修会については、100%の職員が良かったと感じている。 「あなたに必要とされる情報共有を促したことで、連携しつつ迅速な対応ができた。」 状況に応じてケース会議を開いたり保護者面談をしたりして、次年度の取組へ繋げることができた。 個別の教育支援計画に沿って合理的配慮を行うことができた」と回答した職員が100%だった。 「困り感で悩む児童が少しでも減るように、学習面と生活面での合理的配慮を継続する。」 	A	<ul style="list-style-type: none"> 週1回程度、気になる児童の情報共有を図ったことで、適切かつ迅速な対応ができた。 困り感が強い児童に対し、ケース会議を開くなどして、関係する職員で連携して対応することができた。 個別の教育支援計画に沿って合理的配慮を行うことができた」と回答した職員が100%だった。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
○郷土への愛着を高める教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ふるさと「東川登」の「ひと、もの、こと」を誇りに思う教育活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域への好意的な回答をする児童の割合を70%以上にする。 ○「地域と連携した教育活動を推進している」という保護者及び職員の割合を70%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科・総合的な学習の時間と関連させてゲストティーチャーを招くなど、地域の特色を生かした学習の充実を図る。 地域の協力者には感謝の気持ちを伝え、双方の活動にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> JAや郵便局、地域の方などゲストティーチャーを招いて、学習の充実を図ることができた。 「あなたは地域のこと(人・もの・こと)が好きですか」の質問に対して、95%の児童が地域へ好意的な回答をしている。 「学校は、地域と連携した教育を推進している」と保護者全員がアンケートに回答をしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「あなたは地域のこと(人・もの・こと)が好きですか」の質問に対して、98%以上の児童が地域へ好意的な回答をしている。 「学校は、地域と連携した教育を推進している」と今回も保護者全員がアンケートに回答している。 学習のたびに協力いただいた方々には感謝の気持ちを伝え、協力者からはその時々活動内容の提案をいただいた。
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・		・

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 「学力向上」に関しては、個別最適な学び及び協働的な学び、ICTを活用した授業改善に取り組むことができた。さらにリーディングDXを進めていく。 「心の教育」に関しては、地域の方との交流活動や児童の主体的な活動に取り組んだことで温かみのある心の醸成を図ることができた。今後も小さな学校ならではの児童のつながりの見える取組を行っていく。 教職員の特別支援教育に関する専門性の向上を図ることができた。今後も年間を通して支援・配慮を意識した指導や研修を充実させていく。 ふるさとを誇りに思う教育活動は、生活科や総合的な学習の時間などを通して、地域との交流をしながらふるさとのよさを体験的に学ぶことができている。今後も、郷土学習や地域人材の活用をしながら学習の充実を図っていく。
----------------	--